

サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成21年度第6回統計学委員会 議事概要

I. 日 時 平成21年12月15日(火) 17:00~19:00
場 所 社団法人私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 高橋、中西、今泉、渡辺 各委員 (事務局 井端、森下、平田)

III. 検討事項

前回までにとりまとめた統計学教育の学士力や他分野での学士力は分野別教育「学士力考察」の報告・提言として、文部科学省に提出した旨、事務局より報告があった。さらに、今後は、CCC委員会や学系別FD/IT活用研究委員会では、分野別教育における情報教育について検討していきたいとの、事務局からの説明があり、今回から検討に入った。詳細は下記の通り。

1. 統計学教育における情報教育の検討

統計学教育における情報教育の検討するにあたり、趣旨や検討内容に関する説明を事務局より以下の通り行った。

(1) 趣旨

分野別教育の学士力を実現するための資質の一つとして分野固有の教育に必要な「情報活用能力」の教育が不可欠で、分野ごとの教育の中で必須となる情報勝能力を学士力の一部として身につけ、社会において力を発揮できるようにする必要がある。そこで、分野別教育での「情報教育」の方向性を今後研究し、授業での情報教育の実現や充実向上を目指した取り組みを展開するため、CCC運営委員会の協力を得てとりまとめることにした。また、22年度以降は専門の研究組織(情報教育研究委員会)を設置して研究を続ける。情報教育研究委員会は、大きくは情報リテラシー、情報専門、情報非専門(医歯薬系、人文系)の3つに分けて検討する。情報教育の実現には教員の教育力が大きく関与してくるため、教育力の問題は授業での情報通信技術の活用と併せて改めて22年度に研究する予定としている。

(2) 検討内容

21年度は、分野別教育に必要な情報活用力として以下の内容について可能な範囲で研究する。なお、「教育内容」と「教育方法」は1つにまとめてもよい。

- ・到達目標：知識理解・活用(情報倫理含む)、技能として表現
- ・到達度：到達目標ごとに掘り下げた達成水準を表現
- ・教育内容：到達目標ごとに教育内容のイメージを表現
- ・教育方法：到達目標ごとに教育方法の理想モデルを表現
- ・到達度確認の測定手段：到達度を測定する手段について客観性、標準性を配慮したモデルを表現

(3) 検討結果

上記の説明を受けて、委員より情報教育のレベルをどこに設定するのか質問があり、提言として現状よりも先を見越したレベルを想定している旨、事務局より回答した。

次に具体的に各項目について検討した結果、統計教育で必要なスキルは「ソフトの活用」と「シミュ

レーション」の2つであることから、以下のとおり到達目標、到達度までまとめた。

なお、残りの教育内容・方法と到達度確認の測定手段については、次回に検討することにした。

統計学教育における情報活用能力について

【到達目標 1】

問題発見・解決のために、情報通信技術を活用して必要なデータを収集できる。

【到達度】

- ① インターネットで公的な統計データを探ることができる。
- ② 情報技術を活用した統計的サンプリングの方法を理解できる。
- ③ 公平で信頼性のあるデータファイルを作成できる。
- ④ 計測とネットワーク技術の進展により蓄積された大規模データの存在を理解できる。

【教育内容・方法】

【到達度確認の測定手段】

【到達目標 2】

情報通信技術を活用して、データを目的に応じて整理・分析し、結果の妥当性を示すことができる。

【到達度】

- ① 表計算ソフトを用いて基本的なデータの整理と分析ができる。
- ② 統計ソフトを用いてデータの分析と出力結果の解釈ができる。
- ③ 複数の分析結果を比較・統合して、コンピュータを活用して妥当な結論を示すことができる。

【教育内容・方法】

【到達度確認の測定手段】

2. 次回委員会と今後の課題

今回は、1月29日（金）13:30より行い、主に統計学教育における情報活用能力の教育内容・方法と到達度確認の測定手段について検討することを確認した。